

## 第 13 回 CPD WG 委員会議事録（案）

日時：平成 21 年 3 月 4 日（水） 9:30～11:30

場所：日本工学会事務所（港区芝 5-26-20 建築会館 6 階）

出席者（順不同、敬称略）：

主査 関田 真澄（(社)日本冷凍空調学会 事務局長）

委員 伊藤 政人（(株)大林組東京本社技術本部研究開発管理部、土木管理課長、  
土木分野）

木村 軍司（首都大学東京 名誉教授、電気分野）

児玉 公信（(株)情報システム総研 取締役副社長、情報分野）

佐藤 恒夫（(社)土木学会技術推進機構 機構長）

武田 裕久（(株)電業社機械製作所 上席執行役員、機械部門）

永田 一良（日立製作所研究開発本部 技術主管、日本技術士会）

担当理事 橋谷 元由（(社)化学工学会人材育成センター 部長）

事務局 柳川隆之

配布資料：

CPD08-13-1 第 12 回 CPD WG 会合議事録（案）

CPD08-13-2 日本工学会 CPD ガイドライン（案）

CPD08-13-3 ガイドライン作成に関する意見（木村委員）

CPD08-13-4 建設系 CPD 協議会のシステム仕様

CPD08-13-5 CPD ポイント登録トライアルシステム関係図

CPD08-13-6 平成 18 年度作成のリンク集トップページ

議 事：

1. 前回議事録確認

2 月 6 日に開催した第 12 回会合の議事録を確認した。

2. ガイドライン（本体）の検討

関田主査から前回の検討結果に基づき修正されたガイドライン本体の案が提示され、この内容について検討が行われた。その結果を反映して訂正を加えたものを 3 月 27 日の協議会総会で報告することにした。更に追加する意見があれば別途事務局まで伝えることにした。

また、このガイドライン本体よりむしろ個別のガイドラインが大切であるということで認識が一致し、本 WG としてはこの検討を引き続き来年度に行うことにし、この方針を協議会総会に諮ることとした。当面は次の作業を行うこととした。

1) 受講証明書ガイドラインは、証明書は工学会が発行するのでなくホーム学協会が発行するという考え方に沿って修正した文案を関田主査が作る。

2) CPD 記録ガイドラインと質の保証ガイドラインについては委員全員が次回まで意見を事務局に送る。

ガイドライン本体の新たな修正点は次の通りである。

1) 「1. 定義」の第 2 行目の「考え方などは、」を削除する。

2) 同項（2）の第 2 行目の「…の範囲としているが、」を「…の範囲としている。」とする。

3) 同項（3）の全体を削除する。これに伴い、以下の（4）から（9）までの項番号を一つずつ繰り上げる。

4) 同項（7）（新しい番号）の最後に「CPD 実績には CPD プログラムを利用した実績

とそれ以外の実績を含む。」を付け加える。全般にわたって、末尾の「指す。」を「いう。」に統一する。

- 5) 「2. CPD 実績登録システム」の各項目末尾の「(参照: …)」の部分、改行すること、「(参照: …)」という表記に統一する。
- 6) 全般にわたって、末尾の「望ましい。」という表現は、各項のはじめに来る前文に入れ、各項目では断定的な表現に統一する。例えば、2. CPD 実績登録システムでは、項のタイトル下に「各学協会における CPD 実績の管理に当たっては、以下の項目について配慮することが望ましい。」という文章を入れ、(1)の最後は「…システムを整備する。」とする。
- 7) 「2. CPD 実績登録システム」(4)の第2行目以下は、「…集積する。この目的のために、…」とする。
- 10) 同項の第2文を「…主催者は、受講者が他学協会に実績を登録する場合には、受講者の求めに応じて…」とする。
- 11) 「3. CPD プログラムの質の保証」(1)の第2行目の文は「…CPD の目的および基本方針などを明確にすることが望ましい。」として、これを「まえがき」の第4パラグラフに移す。

検討の中で出された意見は次の通りである。

#### 1) ガイドライン本体について

- \* 第2項(4)に関して、CPD の実績の用途は学協会が集積する以外にもあるのではないか？例えば、CPD プログラムとなっていない行事に参加した場合の証明や、会社が自社の用途のために証明を要求する場合などである。(永田) ⇒各学協会の問題と考えるべきことである。
- \* ガイドラインの適用結果のフィードバックや、定期的な見直しの実施の必要性も入れるべきである。完全なものができなくても見直しのときに考えればよい。(児玉)
- \* CPD 実績として集積するものは認定と関連させないといけないのではないのか？(武田) ⇒ガイドラインはあまり細かく書かない方がよい。(伊藤)
- \* CPD の理念は誰が決めるべきことなのか？(児玉) ⇒ECE WG ではECE の理念を明確にしようと検討してきている。(永田) 各学協会の課題でもある。(橋谷)
- \* 「まえがき」の第4パラグラフの国の制度作りに関与するのは誰か？(橋谷) ⇒これも工学会と各学協会の両方の課題である。(佐藤、橋谷)
- \* 質の保証を言う時には認定と結び付けないといけない。(橋谷) ⇒建設系 CPD 協議会では各学協会が自己の責任で行い、協議会会員はそれを尊重することにしている。ただ、評価は各学協会に任されていて、ウエイトを0と評価する学協会もある(佐藤、伊藤)
- \* 「認定と CPD ポイントは各学協会ですべてよい。協議会はそれを尊重する。」という文章を入れてはどうか。(児玉) ⇒とりあえず書かないことにしておく。

#### 2) 木村委員からの先行学協会との関係に関する意見について

木村委員から、「まえがき」の第6パラグラフに関して、個別ガイドラインが古く、また先行している学協会や協議会のやり方と異なるところもあるため、このままでは使われないという指摘があり、これについて議論が行われた。

- \* ガイドライン本体より個別のガイドラインへの期待が大きく、その検討に注力すべきである。(永田)
- \* 今でも生きているものと死んでいるものを整理すべきである。(木村)
- \* 共通コードの提案があるが、これは使われているのか？(木村) ⇒建設系 CPD 協議会では、参考として提供しているものがあるが、使用を義務付けていない。(佐藤)
- \* 日本技術士会では当会が検討をしているものと思っている。ストップしているとは聞いていない。進んでいるならこれに合わせることを考える。(永田)

#### 3) 質の保証ガイドラインについて

- \* 質の保証ガイドラインの第5項のアウトカムズが達成できたかどうかはどう証明するのか？（児玉）⇒テストは義務付けないことにしている。（橋谷）アンケートでフィードバックを行う。（武田）⇒主催者の義務かどうかをはっきりさせる必要がある。（児玉）
  - \* 認定は他の学協会が進んでいるので、工学会が今からやる意味がない。（木村）ビジネスモデルも成り立たない。（関田）以前検討したが、そういう理由で今回は配布しなかった。（橋谷）
  - \* 認定が質の保証につながればいいと思った。ゆるく書いておいてはどうか。（児玉）
  - \* 日本技術士会ではプログラムの認定は行っておらず、あくまで受講者の判断で申告することになっている。その代わりに、ガイドブックに従って研鑽を行っているかどうかの監査を行う。結果は4-5月の機関紙で報告する予定である。（永田）
  - \* 土木学会と機械学会は認定を行っている。
  - \* プログラムの質について、認定という方法と監査という方法があり得ることを質の保証ガイドラインに入れておいてはどうか。（児玉）
  - \* 会員学協会以外の機関が実施するプログラムは質のチェックが必要である。（木村）
  - \* 事前の認定と事後の監査に必要性についてガイドライン本体に入れておくことよい。（伊藤）「質の保証に努める。」という記述のより詳しい内容として入れておく。（橋谷）
  - \* 実施は誰がやるかといえば各学協会しか考えられない。初心者向け、上級者向けといったレベルの妥当性の判定も必要である。（木村）
  - \* ガイドラインは実行をイメージして作らないといけない。本体では考え方を書いて、細かいことは個別に入れるのがよい。（永田）
  - \* 機関認定という考え方があったが、そこまでは立ち入れない。（永田）
  - \* 方法は各学協会が考えることにしないとけない。（児玉）
- 4) 受講証明書ガイドラインについて
- \* あまり難しくすると何に使うかが問われる。ガイドラインに記された1年で70時間は大変である。（永田）
  - \* タイトルはCPD実績証明書としてはどうか。（佐藤）本体と合わせる必要がある。（児玉）
  - \* 実績証明のガイドラインは要点だけ書くのではなく、細かい内容が必要である。（関田）
  - \* 重複登録は、本人が管理すべきであるというスタンスに立ち、ガイドラインからは削除する。（木村、伊藤）
- 4) ポータルサイトについて
- \* 記録ガイドラインの中身が実際のポータルサイト（例えば、建設系CPD協議会のシステム）の検索の入力条件と違っていると使われない。（木村）⇒ももとは両方とも土木学会が提供した。項目の種類はこれでカバーされている。（佐藤）
  - \* 東京コンピュータの市販システムは土木学会のシステムであり、すべてガイドラインに入っているはずである。（佐藤）
  - \* 建設系CPD協議会のシステムには会員学協会のプログラム情報がすべて入っているのか？（永田）⇒載せてほしいというプログラムを有料で載せている。（佐藤）中身は会員学協会のサイトにリンクして見えるようになっている。（永田）
  - \* 日本工学会のポータルサイトへの期待が大きい。何か知りたければまず工学会のシステムにアクセスすればいいというようになっていると便利である。レポートの中にもこのことを入れてほしい。（永田）電気系でも期待している。（木村）

次回は、3月27日の協議会総会の結果を受けて、4月3日（金） 9:30~11:30に開催することにした。

以上